

キャリア・パスポートの記録を基に対話的に関わる場面の例

自分の思いが書けている子の例（小学校5年生）

学校や地域のためにがんばりたいこと

畠のおじちゃんのように、地域の人に進んで挨拶をして、明るい地域にしたいです。

地域の方の思いや願いに触れる教育活動等で



地域の方

○○さんが安全に登下校できるよう、力になりたいと思って見守り隊の活動を続けているよ。いつも笑顔で話しかけてくれてありがとう。

自分の思いがあまり書けていない子の例（中学校1年生）

この1年間で見つけた自分のもち味（自分らしさ）について書きましょう

特に見つけたものはない

赤ペンで子どものよいところを書き込むことも効果的です。

あの頃は辛かったこともあったけど、いろいろな人が自分に関わってくれて、支えてくれていたんだな。



何年後かのわたし

キャリア・カウンセリングや個人面談、3者面談等で

学級活動のとき、みんなの前で話がっていたところは、○○さんのよさだと思いますよ。



教員

みんなに優しいところは、○○のいいところだと思っているよ。



保護者の方

※ その他にも、キャリア教育の要である学級活動で、記録を基に友達と対話を行うことで、互いの成長を認め合えるようにすることも考えられます。

作成したキャリア・パスポートをいつどのような形で開きたくなるのかは、子どもによって様々です。だからこそ、一人ひとりに“そのとき”が来たら、「振り返ってみたい」と思えるアイテムにするために、子どもたちの自己有用感の高まりに結び付けられるよう、大人が対話的に関わりましょう。